

選考委員のコメント

○ これまで著作権について意識せずに行動してきた高校生の態度を変えるために、まず一人一人に明確に考えを持たせ、さらに生徒同意の意見交換の中で考えを深めさせ、最終的に深めた考えを発表を通して広げさせるという、発達段階を踏まえた優れた実践である。

○ 協調学習のグループ編成において男女比や人間関係などを考慮したことが各グループでの実践がまとまった結果と評価する。学習支援教材もうまく活用されていると思う。

○ 指導法の工夫改善が試みられている実践である。協調学習（ジグソー活動）を取り入れ言語化することで後に残る生きた知識を身につけることが期待できる。他方、異なる資料を使ってはいるが、同じような事柄を調べているようなので、エキスパートごとに異なることを調べ、ジグソーで知識が集まると総合的に学びが深まるような知識構成型ジグソーのテーマを設定するとよいと感じた。

○ 取り組み方は、過去の実践の反省も含めてよく構成されている。「内容・流れ」の構想はいいのだが、レポートではすぐに「成果と課題」に入ってしまう、当該実践事例の中で報告していただきたいものと違うものとなっているのが残念である。

○ 定時制高校での実践で、商業法規に関する科目における知的財産権の学習事項に位置づけて扱われている。校種・生徒の特性を捉えて学習項目を絞っていること、調べ学習だけで完結させず、討論や発表活動まで含めた能動的な学習体験として授業をデザインしている点が優れている。生徒の変容について丁寧にデータが採取されている点も良い。学習効果が十分ではないとの自己評価であるが、教材や座学・実習のバランスを調整するなどしてより向上・発展することを期待する。今後は、商標や意匠など、商業科に関連する他の知的財産権とからめて、ビジネス分野における著作権教育に発展することも考えられる。

○ 「協調学習」のワークシートが充実していること、アンケート結果がしっかりしておりよく分析されていることがよい。ただ、理論的な内容が多く、生徒が楽しんで取り組める内容だったのか、やや不安に思う。また、提出された資料は、本実践事例の趣旨に照らして、もう少し整理してほしかった。

○ 生徒の実態を詳細なアンケートで把握し、その結果に基づいて計画された実践である。また、生徒が主体的に関われるようにジグソー活動を取り入れるなどしっかり計画と準備を行っており、終末のアンケート結果に成果がはっきり出ているのがよい。定時制課程の

生徒であるから、すでに社会に出ている生徒が多いので、ここまで細かく具体的に指導することは意味があると思う。

○ 多様な生育歴や学習歴を持ち、日本語を母国語としない学生が2～3割を占めるという当該高校の特殊性があるため、この事例にそれほど汎用性があるとは思えないが、実践自体は優れたものだと思う。

○ 多様な生徒が通い、授業時数も少ない定時制の授業において、著作権教育を行うことはとても大変なことではあるが、教員の工夫と熱意が伝わってくるレポートである。

○ 「5分でできる著作権教育」等を上手に活用してくれていることが良い。クロストーク、ジグソー学習を取り入れ、生徒同士でしっかり考えを出し合い高め合っている。このことが生徒へのアンケートからも分かる。学習前と学習後でどのように生徒が変容したのか明確になっている。学習で扱っている内容も社会人となって生きる内容である。